

北海道総合計画指標一覧

※「現状値」は北海道総合計画策定時点での最新の統計数値

※「実績値」は平成30年8月1日時点での最新の統計数値

(●毎年調査、○数年調査)

区分	番号	指標項目	現状値 ※		実績値 ※		目標値		指標の説明	
			数値など	年(度) (H:年度、 h:暦年)	数値など	年(度) (H:年度、 h:暦年)	数値など	年(度) (H:年度、 h:暦年)		
生活・安心	(1) 安心して子どもを生み育てることができる環境づくりの推進									
	■ 結婚や出産の希望をかなえる環境づくり									
		1	● 合計特殊出生率	1.27 (全国平均値 1.42)	h26	1.29 (全国平均値 1.43)	h29	全国水準	h37	15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計した数値
	■ 安心して子育てできる社会の形成									
		2	● 保育所入所待機児童数	182人	H26	129人	H29	0人	H29	保育の必要性が認定され、保育所等利用の申し込みがなされているが、利用できていない児童の数 ※H29に目標を達成し、以降それを維持することをめざす
		3	○ 小児科医師数 (小児人口1万人当たり)	16.1人 (全国平均値 18.4人)	h26	15.3人 (全国平均値 17.6人)	h28	全国平均値以上	h37	小児人口1万人当たりの小児科医師数
	■ 地域全体で子どもを見守り育てる社会づくり									
		4	● 児童養護施設等における、本体施設、小規模グループケア等及び里親やファミリーホーム等への委託の割合							児童養護施設等の小規模化や里親、ファミリーホームの活用を児童養護施設等の小規模化や里親、ファミリーホームを推進することにより、家庭での適切な養育を受けられない子どもが家庭的な環境、安定した人間関係の下で養育されるよう、概ねそれぞれ3分の1程度の割合をめざす
			本体施設	71.4%	H26	66.1%	H29	60%以下	H37	
			小規模グループケア及び地域小規模児童養護施設	4.0%	H26	5.7%	H29	11%以上	H37	
			里親及びファミリーホーム	24.6%	H26	28.2%	H29	29%以上	H37	
	(2) 安心して質の高い医療・福祉サービスの強化									
	■ 将来にわたり安心できる地域医療の確保									
		5	○ 全道の医療施設に従事する医師数(人口10万人当たり)	230.2人 (全国平均値 233.6人)	h26	238.3人 (全国平均値 240.1人)	h28	全国平均値	h37	道内の医療施設に従事する人口10万人当たりの医師数
	■ 高齢者や障がいのある方々などが住み慣れた地域で安心して暮らせる社会の形成									
		6	● 北海道福祉人材センターの支援による介護職の就業者数	130人	H26	89人	H29	230人	H37	北海道福祉人材センターの斡旋・紹介による介護職の就業者数
	■ 道民一人ひとりの生涯を通じた健康づくりの推進と疾病の予防									
		7	○ 健康寿命	男性:全国第25位(71.11年) 女性:全国第26位(74.39年)	h25	男性:全国第25位(71.98年) 女性:全国第45位(73.77年)	h28	健康寿命を延伸させる	h37	健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間 健康寿命を延伸させることをめざす
		8	● 特定健康診査受診率	36.4%	H25	39.3%	H27	70.0%	H37	40歳以上75歳未満の被保険者及び被扶養者のうち、メタボリックシンドロームに着目した特定健康診査を受診した者の割合
	(3) 豊かで優れた自然・生物多様性の保全とその継承									
■ 豊かな自然の価値・恵みの保全と次代への継承										
	9	● 環境基準達成率							豊かな自然や安全・安心な地域環境の保全、健全な水環境の確保など、環境の状態を示す指標であり、人の健康の保護及び生活環境の保全の上で維持されることが望ましい基準	
		大気汚染	100%	H25	100%	H28	100%	H37		
		水質汚濁	91.6%	H26	92.0%	H29	100%	H37		
■ 人と自然・生き物が共生する社会づくり										
	10	● エゾシカ個体数指数							東部地域は平成5年度を、西部地域は平成12年度を100とした場合の毎年の生息動向を相対的に示した数値	
		東部	102	H26	114	H29	50～25	H37		
		西部	224	H26	268	H29	150～75	H37		
(4) 環境への負荷が少ない持続可能な社会の構築										
■ 低炭素型ライフスタイルの促進や水素エネルギーの活用など地球環境保全の取組促進										
	11	● 温室効果ガス排出量	7,245万t -CO2	H24	6,984万t -CO2	H27	6,099万t -CO2 以下	H37	二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスの道内排出量の合計 H32に目標を達成し、以降それ以下とすることをめざす	
■ 北海道らしい循環型社会の形成										
	12	● 循環型社会の形成状況							経済社会に投入される全体量のうち、循環利用量の占める割合	
		循環利用率	14.5%	H24	-	-	16.0%	H37		
		廃棄物の最終処分量	112万t	H24	106万t	H27	86万t	H37	道内の一般廃棄物と産業廃棄物の最終処分量の合計	

区分	番号	指標項目	現状値 ※		実績値 ※		目標値		指標の説明	
			数値など	年(度) (H:年度、 h:暦年)	数値など	年(度) (H:年度、 h:暦年)	数値など	年(度) (H:年度、 h:暦年)		
生活・安心	(5) 道民生活の安全の確保と安心の向上									
	■ 道民の命と暮らしを守る安全・安心な社会づくり									
	13	● 治安情勢								
		刑法犯認知件数	40,359件	h26	28,160件	h29	前年実績以下	h37	警察において発生を認知した刑法犯の数	
		重要犯罪の検挙率	72.7% (過去5年平均 67.3%)	h26	75.5% (過去5年平均 72.8%)	h29	過去5年平均以上	h37	警察が認知した重要犯罪(殺人、強盗、放火、強姦、略取誘拐、人身売買及び強制わいせつ事件)の件数のうち、検挙した件数の割合	
	14	● 消費者被害防止地域ネットワーク組織数(累計)	52組織	H26	68組織	H30	74組織	H37	地域住民を悪質商法から守るために、自治体・警察・各種団体が連携して見守りなどに取り組む組織の数	
	■ 豊かな食生活を実現する食の安全・安心の確保									
	15	● HACCP手法による衛生管理導入施設数(累計)	511施設	H26	1,367施設	H29	2,250施設	H35	HACCPによる衛生管理手法を導入している施設の数	
	■ 人々が互いに尊重しあう社会づくり									
	16	● 人権侵害事件数(人口10万人当たり)	19.9件 (全国平均値16.9件)	h26	15.7件 (全国平均値15.3件)	h29	全国平均値	h37	法務省の人権擁護機関において人権侵害の疑いのある事案について措置を講じたものの件数	
	(6) 安全・安心な生活の基礎となる防災体制の確立									
	■ 防災体制の整備や防災教育による地域防災力の向上									
	17	● 自主防災組織活動カバー率	51.3% (全国平均値80.0%)	H26	56.2% (全国平均値82.7%)	H29	H31までに 全国平均値以上	H31	全世帯数のうち、自主防災組織の活動範囲に含まれている地域の世帯数の割合	
■ 災害に強い地域づくりの推進										
18	● 災害の態様に応じた警戒避難体制の整備状況									
	避難勧告等に係る具体的な発令基準の策定状況(水害、土砂災害、高潮災害、津波災害)		水害86.9% 土砂災害92.0% 高潮災害73.1% 津波災害98.8%	H26	水害86.4% 土砂災害95.4% 高潮災害74.3% 津波災害98.8%	H29	H31までに 100%	H31	市町村における避難勧告等の発令基準や津波避難計画、火山・洪水・津波についてのハザードマップの作成割合	
	常時観測火山(9火山)のハザードマップの作成状況		88.9% (8火山)	H26	88.9%	H29	H31までに 100%	H31		
	洪水ハザードマップを作成した市町村の割合		94.9%		95.0%	H29				
	津波ハザードマップを作成した市町村の割合		97.5%		97.2%	H29				
津波避難計画を作成した市町村の割合		72.8%	93.9%		H29					
(7) 強靱な北海道づくりとバックアップ機能の発揮										
■ 大規模自然災害に対する北海道自らの脆弱性の克服										
19	● 緊急輸送道路上等の橋梁の耐震化率(道道)	59%	H26	73.9%	H29	100%	H37	緊急輸送を円滑かつ確実に行うための緊急輸送道路や避難路上にある橋梁の耐震化の割合		
20	○ 住宅及び多数利用建築物の耐震化率	82%	H22	86.6%	H27	95%以上	H37	住宅及び多数の者が利用する建築物の耐震化の割合 H32に目標を達成し、以降それ以上とすることをめざす		
■ 被災リスクの最小化に向けたバックアップ機能の発揮										
21	● リスク分散による企業立地件数	H24~H26 累計63件 (3年間 平均21件)	H26	20件	H29	H28~H31 累計92件	H31	リスク分散を理由とした道内での企業立地(新設及び増設)の件数		

区分	番号	指標項目	現状値 ※		実績値 ※		目標値		指標の説明
			数値など	年(度) (H:年度、 h:暦年)	数値など	年(度) (H:年度、 h:暦年)	数値など	年(度) (H:年度、 h:暦年)	
経済・産業	(1) 農林水産業の持続的な成長								
	■ 潜在力のフル発揮で地域の経済・社会を支える農業・農村づくり								
	22	● 食料自給率 (カロリーベース)	197% 概算値	H25	185% 概算値	H28	258%	H37	北海道の食料消費が、道内の食料生産によってどのくらい賄われるかをカロリー(供給熱量)ベースで算出したもの
	23	● 新規就農者数	612人	h26	569人	h29	毎年 770人	h37	新たに就農した者の数
	■ 水産物の安定供給を担い地域を支える活力ある水産業・豊かな漁村づくり								
	24	● 漁業生産額 (漁業就業者1人当たり)	978万円	h25	1,033万円	h28	1,324万円	h37	漁業就業者1人当たりの漁業生産額
	25	● 新規漁業就業者数	216人	H25	179人	H29	毎年 260人	H37	漁業に新たに就業した者の数
	■ 林業・木材産業の振興を図り、資源の循環利用を進める森林づくり								
	26	● 道産木材の利用量	400万m ³	H25	421.7万m ³	H28	509万m ³	H37	森林づくりに伴い産出され、利用される木材の量
	27	○ 林業の新規参入者数	107人	H25	151人	H28	毎年 160人	H37	林業に新たに就業した者の数
	(2) 本道の優位性を活かした力強い地域産業の創造								
	■ 高い付加価値を生み出すものづくり産業の振興								
	28	● 製造業の付加価値 生産性	870万円	h26	989万円	h28	1,280万円	h37	製造業の従事者1人当たりの付加価値額(生産額から原材料使用料等や減価償却費などを控除した額)
	■ 地域資源を活かした食関連産業の振興								
	29	● 食品工業の付加価値 額	5,748億円	h26	7,002億円	h28	6,500億円	h37	食品工業における企業の営業利益(税引き後)
	30	● 商談会等における 国内成約件数	3,422件	H26	3,722件	H29	4,300件	H37	国内で道や団体などが主催する商談会の開催により成約となった取引件数
	■ 本道の立地優位性を活かした企業誘致の推進								
	31	● 企業立地件数	H22～H26 累計355件 (5年間 平均71件)	H26	100件	H29	H28～H37 累計 780件	H37	道内での企業立地(新設及び増設)の件数
	(3) 中小・小規模企業の振興や地域商業の活力再生								
	■ 地域の経済・雇用を支える中小・小規模企業の振興								
	32	● 公益財団法人北海道 中小企業総合支援 センターの相談件数	8,145件	H26	12,288件	H29	12,000件	H37	(公財)北海道中小企業総合支援センターが行った「経営相談」及び「専門相談」の件数
	33	● 開業率	4.3%	H26	4.4%	H29	10.0%	H37	既存事業所に対する新規に開設された事業所数の割合
	■ 住民の暮らしを支える地域商業の活性化								
	34	○ または増加している 商店街の割合	30.4%	H26	28.0%	H28	50.0%	H37	来街者数が現状を維持している、または増加していると回答した商店街の割合
	■ 地域の安全・安心に欠かせない建設業の振興								
	35	● 道内建設業就業者の 年齢階層別構成比の 29歳以下の就業割合	8.3%	h26	9.5%	h29	13.1%	h37	道内建設業就業者のうち、15～29歳の者の人数割合
	(4) 新たな成長産業への挑戦や研究開発の推進								
	■ 健康長寿・医療関連産業の創造								
	36	● 医薬品・医療機器 生産金額	644億円	h26	622億円	h27	720億円	h37	医薬品・医療機器の製造所において製造された最終製品の生産金額
	■ 新エネルギーの開発・活用促進や環境・エネルギー産業の創造								
	37	● 新エネルギー導入量							
		発電分野(設備容量)	202.5万kW	H26	271.0万kW	H28	282万kW 以上	H37	太陽光、風力、雪氷またはバイオマスを利用して得られるエネルギー及び地熱その他の環境への負荷が少ないエネルギーの量
		発電分野(発電電力量)	5,924百万 kWh	H26	7,693百万 kWh	H28	8,115百万 kWh以上	H37	H32に目標を達成し、以降それ以上とすることをめざす
		熱利用分野(熱量)	13,242TJ	H26	14,227TJ	H28	20,133TJ 以上	H37	
	■ 本道の活性化に役立つ科学技術の振興								
	38	● 産学官の共同研究の 件数	1,135件	H26	1,428件	H29	1,500件	H37	道内の大学等(国・公・私立大学、短大、高等専)及び道立試験研究機関(地方独立行政法人北海道立総合研究機構を含む)等における共同研究の件数

区分	番号	指標項目	現状値 ※		実績値 ※		目標値		指標の説明	
			数値など	年(度) (H:年度、 h:暦年)	数値など	年(度) (H:年度、 h:暦年)	数値など	年(度) (H:年度、 h:暦年)		
2 経済・産業	(5) 海外の成長力を取り込んだ経済の持続的発展									
	■ アジアなど海外への北海道産食品の輸出拡大									
		39	● 道産食品輸出額	663億円 ※	h26	674億円 ※	h29	1,500億円以上	h37	本道から道内港を通じ、直接海外へ輸出された道産食品の通関額及び道外港を通じ、海外へ輸出された道産食品の通関額の推計(H30.12～) ※現状値及び実績値は、函館税関を通じ、直接海外へ輸出された道産食品の通関額
	■ 海外展開によるビジネス創出と海外からの投資の促進									
		40	● 輸出額	4,787億円	h26	3,920億円	h29	7,250億円	h37	本道から函館税関を通じ、直接海外へ輸出された通関額
	(6) 多彩な地域資源を活かした世界が憧れる観光立国北海道の更なる推進									
	■ 食や自然環境など豊富な資源を活かした滞在交流型の観光地づくり									
		41	○ 観光消費額(道内容、道外客、外国人)							道内、国内、海外からの観光客が道内での観光1回に消費した平均額(1人当たり)
			道内容1人当たり	13,271円	H22	12,865円	H27	15,000円	H37	
			道外客1人当たり	69,670円	H22	73,132円	H27	79,000円	H37	
			外国人1人当たり	122,128円	H22	178,102円	H27	209,000円	H37	
	■ 国内外への効果的な誘客活動による旅行市場の拡大									
		42	● 国際会議等の開催状況	107件	h26	125件	h28	140件	h37	道内で開催された国際会議の開催回数
		43	● 道外からの観光入込客数(うち外国人客)	723万人(154万人)	H26	885万人(279万人)	H29	1,150万人(500万人以上)	H37	道外から本道を訪れた観光客(国内及び外国人)の実人数
	(7) 良質で安定的な雇用の場づくりと産業人材の育成・確保									
	■ 雇用の受け皿づくりと産業人材の育成・確保									
	44	● 就業率	53.1%(全国平均値57.3%)	h26	54.4%(全国平均値58.8%)	h29	全国平均値	h37	15歳以上の人口のうち、仕事に就いている人の割合	
■ 多様な働き手の就業支援と就業環境の整備										
	45	● ジョブカフェ北海道での若年者の就職内定者数	6,362人	H26	6,399人	H29	H28からの累計63,800人	H37	ジョブカフェ北海道に登録し、就職支援サービスを受けて就職が内定した人数の累計 新規学卒予定者や若年求職者(44歳以下)など、様々な状況に置かれた者が、安定的に仕事に就くことができたことを測るもの	
	46	● ジョブサロン北海道での中高年齢者等の就職者数	522人	H26	557人	H29	H28からの累計5,400人	H37	ジョブサロン北海道に登録し、就職支援サービスを経て就職した人数の累計 家計を担う求職者や復職を希望する女性など、様々な状況に置かれた中高年齢者等(35歳以上)が、安定的な仕事に就くことができたことを測るもの	
	47	● 年間総労働時間(フルタイム労働者)	2,006時間	h26	2,041時間	h29	1,922時間	h37	常用労働者のうち、パートタイム労働者以外の労働者の年間総労働時間	
	48	● 育児休業取得率	男性3.0% 女性87.9%	H26	男性2.2% 女性81.5%	H29	男性13.0% 女性90.0%	H37	出産者または配偶者が出産した者のうち、育児休業取得者の割合	

区分	番号	指標項目	現状値 ※		実績値 ※		目標値		指標の説明
			数値など	年(度) (H:年度、 h:暦年)	数値など	年(度) (H:年度、 h:暦年)	数値など	年(度) (H:年度、 h:暦年)	
人・地域	(1) 協働によるまちづくりの推進や地域コミュニティの再構築								
	■ 地域で互いに支え合うまちづくりの推進								
	49	「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」と考える人の割合	76.2%	H26	70.5%	H29	増加させる	H36	道が実施する道民意識調査における「できれば今と同じ市町村に住んでいたい」と考える人の割合
	50	集落対策を実施している市町村	85市町村 (集落がある市町村177)	H25	142市町村	H29	集落がある全市町村	H37	集落がある市町村のうち、集落対策として生活交通の確保や買い物支援などの対策を実施している市町村の数
	■ 居住環境の魅力を活かした移住・定住の促進								
	51	● 移住・定住の促進	実績なし (H27.10開設)		1,372件	H29	1,770件	H37	「北海道ふるさと移住定住推進センター」において移住関連相談を受ける件数
			「北海道ふるさと移住定住推進センター」の年間相談件数	66,592日	H26	86,888日	H29	107,000日	H37
	52	● 地域おこし協力隊員数	225人	H26	593人	H29	670人	H37	本道において地域おこし協力隊として働く隊員の数
	■ 地域の可能性を広げるICTの活用								
	53	● ブロードバンドサービス人口普及率	79.4%	H26	143.1%	H29	150%	H37	本道の全人口に対するブロードバンドサービス(光回線、モバイルルーター、スマートフォンなど)契約数の総数の割合
	(2) 北海道の未来を拓く人材の育成								
	■ ふるさとへの誇りと愛着を育み、これからの北海道を担う人づくり								
	54	● 平均正答率の状況	小学国A 98.5 小学国B 95.3 小学算A 97.1 小学算B 94.8	H26	小学国A 99.2 小学国B 96.3 小学算A 98.0 小学算B 94.6	H30	H34までに全ての管内で全国平均値以上(100以上)	H34	全国学力・学習状況調査における平均正答率の全国平均値を100とした場合の北海道の各教科の数値(小学校6年生、中学校3年生) [国語A、算数・数学A] 主として「知識」に関する問題 [国語B、算数・数学B] 主として「活用」に関する問題
			中学国A 100 中学国B 97.8 中学数A 97.9 中学数B 99.3	H26	中学国A 100.7 中学国B 100.0 中学数A 98.2 中学数B 97.7	H30			
	55	● 児童生徒の体力・運動能力の状況	小学男子 48.5 小学女子 47.7	H26	小学男子 49.3 小学女子 48.6	H29	H34までに全国平均値以上(50以上)	H34	全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の総合得点の全国平均値を50とした場合の北海道の数値(小学校5年生、中学校2年生)
中学男子 47.9 中学女子 45.9			H26	中学男子 48.6 中学女子 46.6	H29				
56	● 生涯学習の成果を活用している住民の割合	40.3%	H26	61.7%	H29	80.0%	H37	「生涯学習」を行った人のうち、「学習活動を通じて身に付けた知識・技術や経験をまちづくりやボランティア活動、子どもたちを育むための活動、他の人たちの学習やスポーツ活動、文化活動などの指導に生かしている」と回答した人数の割合	
■ グローバル化に対応した世界で活躍できる多様な人材の育成									
57	● 国際理解教育を行っている公立高校の割合	71.0%	H26	100.0%	H29	H31までに100%	H31	姉妹校との生徒の交流会や外国人による講演会など国際理解教育に関する取組を行っている公立高校の割合	
58	● 外国人留学生数	2,588人	H26	3,155人	H29	3,700人	H37	「出入国管理及び難民認定法」に定める「留学」の在留資格により道内の大学などで教育を受ける外国人学生の数	
■ 次代の社会を担う子ども・青少年が健全に育成される環境づくり									
59	● いじめに対する意識	小学校 82.3%	H26	小学校 83.2%	H29	H34までに小学校 中学校ともに100%	H34	全国学力・学習状況調査において、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」について、「当てはまる」と回答した児童・生徒の割合	
		中学校 70.7%	H26	中学校 73.5%	H29				
(3) 高齢者や障がいのある方々、女性が活躍できる社会づくり									
■ 意欲と希望のある高齢者や障がいのある方々の活躍促進									
60	● 高齢者(65歳以上)の就業率	16.5% (全国平均値20.8%)	h26	18.7% (全国平均値23.0%)	h29	h31までに全国平均値以上	h31	65歳以上の高齢者のうち、仕事に就いている人の割合	
61	● 障がい者の実雇用率(民間企業)	1.90%	h26	2.13%	h29	h31までに法定雇用率(2.2%)以上	h31	「障がい者の雇用の促進等に関する法律」に基づき障がい者等の雇用義務がある民間企業における障がい者の平均実雇用率	

区分	番号	指標項目	現状値 ※		実績値 ※		目標値		指標の説明
			数値など	年(度) (H:年度、 h:暦年)	数値など	年(度) (H:年度、 h:暦年)	数値など	年(度) (H:年度、 h:暦年)	
3 人・ 地域	■ 社会のあらゆる分野で女性の力が発揮できる環境づくり								
	62	● 女性(25～34歳)の就業率	66.8% (全国平均値 71.6%)	h26	71.4% (全国平均値 75.7%)	h29	h31までに 全国平均値 以上	h31	25～34歳の女性のうち、仕事に就いている人の割合
	(4)ふるさとの歴史・文化の発信と継承								
	■ 北海道独自の歴史・文化の発信と次代への継承								
	63	● 北海道博物館の利用者満足度	65.8%	H25	73.0%	H29	80.0%	H37	北海道博物館の利用者調査で「満足」と回答した人の割合
	■ 先人から受け継いだ財産を活かした新たな展開								
	64	● 赤れんが庁舎入館者数	51万人	H26	69万人	H29	81万人	H37	赤れんが庁舎の年間入館者数
	■ 生活に潤いと豊かさをもたらす芸術文化の振興								
	65	○ 文化会館入場者数	46万人	H22	-	-	50万人	H37	公立文化会館が主催・共催する事業の入場者数または参加者数
	(5)世界に飛躍するスポーツ王国北海道の実現								
	■ 地域スポーツ活動の推進と環境の充実								
	66	○ 本道の成人の週1回以上のスポーツ実施率	59%	H26	59%	H28	65%	H37	道内の成人のうち、週に1回以上スポーツをする人の割合
	■ 世界の舞台上で活躍するトップアスリートの育成								
	67	○ 本道出身のオリンピック・パラリンピック出場者数	夏季17人 (ロンドン) 冬季60人 (ソチ)	h24 h26	夏季20人 (リオデジャネイロ) 冬季72人 (平昌)	h28 h30	前回大会 以上	h37	本道出身の夏季・冬季オリンピック・パラリンピック出場選手の数
	(6)連携・協働・交流による未来に向けた地域づくり								
	■ 個性と魅力を活かし様々な連携で支え合う地域づくり								
	68	● 国や道の広域連携制度に取り組む地域数	12地域	H26	23地域	H29	25地域	H37	道内で定住自立圏及び連携中枢都市圏、道独自の市町村連携地域モデル事業により連携する地域の数
	69	● 本道からの転出超過数	約8,000人	h26	2,890人	h29	0人	h37	本道に転入してくる人と本道から転出する人の差
	■ 国際交流と多文化共生の推進								
	70	● 外国人居住者数	23,534人	h26	32,408人	h29	38,000人	h37	本道に90日以上滞在しようとする者のうち、居住する市町村に外国人登録申請をし、登録された者の数
	■ 北方領土の早期返還と隣接地域の振興								
	71	● 北方領土返還要求署名数(累計)	8,702万人	H26	8,992.2万人	H29	9,769万人	H37	昭和40年から行われている北方領土返還要求署名数の累計値
	(7)持続可能な社会・経済を支える社会資本の整備								
■ 産業活動や暮らしを支える社会資本の戦略的・効率的な整備									
72	● 個別施設ごとの長寿命化計画策定率	41.7%	H26	58.3%	H29	H32までに 100%	H32	道所有の交通、上下水道、公園、治水、農林水産施設、建物などの個別施設ごとに策定する長寿命化計画の策定割合	
■ 連携と交流を支える総合的な交通ネットワークの形成									
73	● 道内空港の国際線利用者数	205万人	H26	374万人	H29	380万人 以上	H37	道内空港の国際線(定期便、チャーター便)の利用者数	